

48. いじめ問題を考える（7）

3月27日の記事「いじめ相談全国から 川口被害生徒の母奔走」（東京新聞）を読んで感激した。いじめ問題は複雑で本当に難しい問題と実感しているので、記事のことを少し述べたい。

母親は川口市の森田志歩さんで、「息子がいじめに遭い学校や教育委員会と戦った経験を基に、全国から100件以上のいじめ相談を受け、そのほとんどを解決し、大人の都合ではなく子どもにとって一番よい道を探ろう」と呼び掛ける手法が支持され、保護者や子どもだけでなく、校長や教育委員会からも相談が相次いでいるという。森田さんは、「息子がいじめに遭い自傷行為に及んだ際、学校側が向き合わず、ほかの保護者らへ虚偽の説明を繰り返すなどしたため、一時は周囲からうそつき呼ばわりされ中傷された」経験があり、当時の対応を巡り今も川口市と係争中というから、信念の人のようだ。

相談してくる保護者の多くは学校や教育委員会との話し合いがこじれて対立し、追い詰められているとある。多くのいじめの記事を見ればその通りの現実があるのは即理解できる。記事の中学2年男子の母親の事例は、息子のいじめが学校に認めてもらえず、長期の不登校になり、市教委にも理解されず、息子に非があるようなことも言われた。それが、「森田さんが介入してくれるようになったら、事態が急に動いた」という。

相談を受けて森田さんがまず行ったのは、生徒と直接話して意向を確認した上で、市教委、学校、保護者など関係者が集まって話し合う場を設置することだった。森田さんは「私は学校や親の味方でも敵でもない。味方するのは子どもだけ」と自己紹介し、経緯を振り返り、いじめ防止対策推進法を説明しながら、学校や市教委が何を怠ったのかを明らかにした。市教委は、初動にかかわる基本的な部分で法律の解釈を間違えていたことを認め、謝罪したという。

いじめを受けた子の保護者が学校や市教委を責め立てることはよくあることで、そうなり勝ちだが、森田さんは「子どもと関係ないことは今はやめよう」と説得し、教育を受ける権利や安心して暮らす権利を奪われた状態にいる子どもを救うことを第一にしたという。「学校のメンツ、保護者の不満など大人の都合はひとまず横に置き、どうしたら子どもに寄り添った対応ができるか、ともに考える」ことを徹底させたという。解決の鍵はこの辺にありそうだが、なかなかこのようにリーダシップを発揮できるものではない。

会議の後、学校や市教委の態度は一変。担任教諭らが自宅に来てフォロー。変化を感じ取った生徒は「学校に行こうかな」と口にするようになり、森田さんに「何かあったらいつでも助けるよ」と励まされ、学校へ通い始めたという。この結果を喜んだのは、保護者だけでなく市教委もだ。通常、再登校は短時間から始めて様子を見ながら徐々に在校時間を長くしていくが、このケースは初日から一日学校にいて、その後も毎日通っているという。

森田さんの対応は、子供との信頼関係を早期に作り、第三者として徹底して子供の側に立っていることがわかる。

ただ、公務員でも学識経験者でもない第三者にいじめ解決の協力を正式に依頼することは、「今の学校教育制度の中では想定されていない」と教委の課長は話すが、相談の半数は教委会や学校などいじめの訴えに対応する側という。

現行教育制度の枠外でも頼られる森田さんは、「いじめについての法律を含めた知識や、子どもの権利を守ることへの認識が決定的に不足していて、子どもの声をきちんと聞けていない学校や教委会だけでは解決できなくなっている」と指摘する。

学校側は、知識不足や思い込みで被害の訴えを軽視し、子どもを絶望させ、保護者を怒らせる。保護者側も、怒りのあまり要求が過剰になることがある。大人同士の対立の中で、子どもがいないがしろにされる。いじめで不登校になっていたある子どもが「親が先生を怒鳴るのがつらい」と森田さんに打ち明けたという。

森田さんは「いじめも虐待も年々件数が増え、命を絶つ子どもが後を絶たない。改善できていないのだから、今のままではだめだと国も分かっているはず」と訴え、「第三者が子どもの味方になり、代弁できる仕組みを早く制度化してほしい。私は本気で子どもを守りたい」という。

この記事では、いじめた側の子や父兄とのやりとり・関係性などは述べられていないが、深刻ないじめ問題の解決に大きな一石を投じたものと経験上からも思う。大事な記事だ。

森田さんの行動に頭が下がり、訴えに共感する。

(2021年3月30日)

=====

昨年10月に文科省から発表されたいじめのデータ（概略）

2019年度に全国の小中高校などでいじめを認知した学校は、全体の83%で過去最多。早期発見や報告を学校に求める「いじめ防止対策推進法」が施行された13年度と比べて31ポイントの増。児童生徒の自殺は前年度に続き、300人を超えた。

いじめの認知件数は61万件で過去最多。特に小学校が5年前と比べて約4倍に増。いじめによる「重大事態」も、これまでで最多の723件。認知したいじめのうち、いじめ行為がなくなり、心身の苦痛がなくなって解消したと学校が判断した割合は全体の83%。